

2024年 4月26日

苫小牧市長  
岩倉 博文 様

苫小牧港の軍港化阻止実行委員会  
実行委員長 横山 傑

【公印省略】

## 「特定利用港湾選定」について市民への説明を求める要請書

日頃の市政へのご精勤に敬意を表します。

さて、苫小牧港が政府により2024年4月1日に「特定利用港湾」に選定されたことが、報道されています。

第5回定例会市議会での質疑では、「特定利用港湾」は、自衛隊や海上保安庁の艦船が平時から港湾を円滑に利用できるよう「枠組み」を設けるものであり、その背景にはロシア・ウクライナ情勢や北朝鮮のミサイル問題のほか先行きが不透明な東南アジア及び東アジア情勢などの我が国の安全保障環境があることが答弁されています。

また、選定にあたっては国から、インフラ管理者と関係省庁との間で「円滑な利用に関する枠組み」が設けられるよう、苫小牧港管理組合に確認依頼があり、苫小牧港管理組合とその母体である北海道と苫小牧市で協議が進められていることも答弁されていました。

定例会市議会ではこのことと同時に、苫小牧市は「非核平和都市条例を持っている、平和の実現を願い、また実現に向けて努力することは次の世代へ繋げていかなければならない、また、市民の安全・安心を第一義に考えていきたいと考えている」と、こうした問題に向き合う際の市としての基本的な姿勢も表明されました。

私たちは、こうした経過を踏まえた上で、民間港の軍事利用が日常化することで事実上の軍港化が進んでいくことに懸念を抱くと共に、「苫小牧市非核平和都市条例」を空洞化させることなく恒久平和と核兵器のない平和の実現に向けて市民として努力する立場から、貴職に対し下記の項目を要請しますので、ご多用の中お手数をおかけしますが、速やかにご回答下さるようお願いいたします。

以上

### 記

1. 今回の選定にあたり高知県では、国土交通省・海上保安庁・防衛省との間で確認された「港湾施設の円滑な利用に関する確認事項」が県のホームページなどで公開されています。苫小牧港の選定にあたっては関係機関との間でどのような確認がなされているのでしょうか。文書として確認事項があればそれを市民に公開してください。ない場合は北海道と苫小牧市がどのような協議過程を経て選定に合意したのかも含め協議の内容を公開してください。

2. 今回の選定にあたり、国からは自衛隊や海上保安庁の優先的な利用を前提にしたものではないことが説明されたとのことですが、「利用回数はどのくらい増加することが予想されているのか」、「一度に入港する艦船の数や積載する物資の量と内容なども含めこれまでの利用の仕方と異なる利用は予定されているのか」、「港湾運送事業に影響が出ることはないのか」についてお答えください。

3. 2024年度の事業費として苫小牧港には24億円が割り当てられるとのことですが、「具体的にはどのような事業が予定されているのか」、「最終的にはどのように苫小牧港の機能が拡充されるのか」、「それは民間の船舶の利用に関しても利便性が向上するものであるのか」についてお答えください。

4. 今回の選定は「有事を対象としたものではない」と説明されたとのことですが、2022年に閣議決定された安保三文書（国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画）では台湾有事などのリスクが高まっていることを背景に東アジアの国際秩序の維持を図るための方策の一つとして空港や港湾などについて米軍との共同使用を進めることがうたわれており、今回の選定はこれにつながるものではないかと私たちは危惧しています。こうした事実は他国も認識しており、苫小牧港が有事の際に攻撃目標となる危険性は高まるのではないのでしょうか。市としての認識をお答えください。